

担 当 講 座

テーマNo.1	十分杯から日本経済の発展初期を学ぶ。
内 容	世界はいつもグローバリゼーションの最中にあった。日本も例外ではない。日本が西洋に知られるようになったのは16世紀であるが、日本経済が飛躍し始めたのはその時代からである。その背景には中国の税制改革、オランダの東インド会社の東アジアでの貿易、ユダヤ人の特性、日本の銀、朝鮮の精錬技術があったわけだが、それらを長岡藩ゆかりの十分杯と関連付けて解説する。
テーマNo.2	十分杯の種類、仕組み、歴史、文化を知ろう。
内 容	長岡大学には世界一の十分杯コレクションがある。長岡藩ゆかりの物でもあるが、それ以上に歴史的に芸術的に優れたものがある。それらについて、長岡に伝わった経緯、他の地域との違い、そして、その原理であるサイフォンの原理について実験道具を活用しながら説明していく。からくり杯であるため、とても不思議だし、そこに込められた素晴らしいメッセージについても皆と考えていきたい。
テーマNo.3	豊かな国と貧しい国、豊かな地域と貧しい地域の違いから学生たちが学ぶべきこと。
内 容	世界には多くの国々があるが、豊かな国もあれば、貧しい国もある。スイスは約200年前まではヨーロッパで最も貧しい国の一つだったが今は世界トップレベルの国に変わっている。また、同じ国の中でも豊かな地域もあれば貧しい地域もある。太平洋沿岸地域と日本海沿岸地域との格差である。そして、日本海沿岸地域のなかでも石油資源の発掘で発展した新潟県と秋田県だが、現在の様子はかなり異なる。長岡市は日本で6番目の地方機械金属の集積地であるが、秋田市は機械工業の集積はあまり見られない。本講座は、スイスの事例、長岡と秋田の事例を紹介することで、勉強も自分独自の方法でやっていくことを勧めるためのものである。